

当院における小腸病変の内視鏡検査の実態について
一炎症性腸疾患・消化管腫瘍の病態解明・治療への寄与について一
に関する研究

1. 研究の対象

当院で過去10年（2008年1月～2017年10月）に小腸内視鏡検査（カプセル・バルーン）を受けられた方

2. 研究目的・方法

【研究の目的】小腸内視鏡検査の有効な検査方法また小腸病変の病態について検討します

【研究の方法】

2008年1月から2018年3月の間に当院で小腸内視鏡検査（カプセル・バルーン）を受けられた方のカルテから、臨床情報（性別、年齢、疾患発症時期、重症度、治療内容、予後情報など）のみを残したデータを用いて、小腸検査の有効性について統計解析をします

3. 研究に用いる試料・情報の種類

性別、年齢、疾患発症時期、重症度、治療内容、予後情報など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校病院 消化器内科

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

電話：04-2995-1511（内線：2369）

研究代表者（研究責任者）；渡辺知佳子、研究分担者；穂苅量太、高本俊介